

# 20日元 26 DAN

ご自由に  
お持ち帰り  
ください

2026.WINTER  
No.11



表紙写真：1階 受付・会計

## Contents

- P1～P2 ごあいさつ
- P3 HCUのご紹介
- P4 人間ドックのご紹介
- P5 外来患者さん満足度調査の  
結果をお知らせします



中核医療センター・地域医療支援病院

霧島医療センター

住民の方たちへ

最良の医療を目指して



あけましておめでとうございま  
す。皆様、それぞれの思いで新年  
を迎えたことと 思います。私  
もこれから当病院のあるべき姿  
を考えながら、悩ましい思いで年  
を越すこととなりました。

新しい病院が完成し診療科も増  
えたのになぜ?と思われる人も多  
いかもしません。マスクで病  
院は赤字、特に当院のような公  
的病院は全国のほとんどの病院が  
赤字で経営困難と報道されていま  
す。

ではなぜ赤字?病院の収益は国  
が定めた診療報酬でするので赤字だ  
からと価格を吊り上げることは出  
来ません。医師不足が深刻な状況  
のなか当院は県央の中核病院とし  
て常勤医と鹿児島大学からの派遣

しかしこのような医療を提供すればするほど赤字が膨らむのです。それは物価高騰の影響で高価な医療材料費がかかり、また二十四時間体制の救急医療や時間外の手術などには多く医療スタッフの人工費が必要です。

では黒字にするにはどうすればよいのでしょうか。時間外の救急や高度の手術をやめて医療を縮小し、医師の数も減らすことが手っ取り早い方法です。しかし一度、失った人材や医療体制は元に戻ることは出来ません。このような病院を住民の方々は望まれるでしょうか。

住民の方たちへの最良の医療を提供しこの地域で多くの命を救うために医療センターと霧島市と医師会としつかり協議しこの難局を乗り越えられるよう頑張りたいと思います。本年も皆様のご理解とご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

A wide-angle photograph of a sunset or sunrise over a range of mountains. The sky is a gradient of warm colors, from deep orange to a pale yellow near the horizon. The mountains in the foreground are dark silhouettes against the bright sky. Overlaid on the right side of the image is the Japanese New Year greeting 'あけましておめでとうございます' (Akemashite omedetou gozaimasu) in a large, white, flowing calligraphic font.

## 新年のごあいさつ

病院長 可野 嘉文



新年明けましておめでとうございます。二〇二六年（令和八年）が始まり、昨年二月一日にオープンしました新病院もやつと一年が経過します。以前より多くの皆さんがご利用いただけて病院長として大変感謝申し上げます。この間には駐車場の少なさや、新病院のレイアウト、あるいは待ち時間の長さ等について多くのご意見をいただきました。病院の運営方法についても院内で検討させていたただきますが、駐車場を含む施設・設備については霧島市の財産であり、病院の判断で何かできるものではありませんので、皆様方からいただいたご意見は霧島市に伝えるようにしております。「ご了解のほどよろしくお願い申し上げます。

ところで、昨年十月に発足した高市内閣でも盛んに議論されていますように、わが国の医療制度は財政的に崩壊の危機に瀕しており

の流通コスト上昇などで、病院運営の基本的な費用がうなぎのぼりに増加しています。通常の経済行為であれば、販売価格（病院では診療費）の値上げで対応するのですが、保険診療制度の下での医療提供はすべて公定価格となることからそれは不可能です。ひとくちに医療と言つても、急性期や慢性期、あるいは診療所や病院で事情は異なるのですが、国民医療費は二〇二四年には四十八兆円になり、二十年前の三十兆円にくらべて驚きの伸びを示しています。医師等の医療提供者の技術料、とりわけ手術関係の技術料はほとんど変化しておりませんので、伸びの部分は診療材料費と薬剤費が大部分を占めると言つても過言ではありません。これらの費用は患者数が増えれば当然増えますし、患者数が少なくなるれば減少します。病院で支払つていただく費用（一割）三

財政事情も非常に厳しいものが、あると伺っておりますので、今のような高コストの医療提供を続けていくかどうかを相談するべき時機になっています。中長期的には日本全体の人口減少に伴い各地の病院機能は縮小されます。コトと直接関係する当院の診療療料数が適正か、あるいは費用対効用が悪い救急医療体制を縮小するか等の検討など、具体的に経費の節減を考えなければなりません。最終的に税金の使い道を考えるのは市民の皆さんのが役割かと思います。霧島市立医師会医療センターは今後どのような医療の提供をすべきか、市民の皆さん意見をとし、行政・病院・姶良地区医師会で新たな方針を示すべきだと考えておりますので、未来の霧島市のために二〇二六年（令和八年）がそのスタートの年になることを祈念いたします。

## 病院は街の財産

病完長補左 卵 正和



謹んで新年のお慶びを申し上げます。令和八年の新春を迎え、皆さまにご挨拶できますことを大変うれしく存じます。

昨年二月多くの方々の支援に支えられ新病院の開設に至りました。深く感謝申し上げます。新たに整備された病院は、単に医療を提供する場にとどまらず社会資源の一つとして地域全体に開かれた存在であるべきと考えております。街づくりに寄与し、市民の皆さまが安心して暮らせる社会を築くための拠点となることを目指します。

医療は「治すこと」を第一とする時代から、「寄り添うこと」に重きを置く時代へと変化してまいりました。その中で、当センター

たいと考えております。医療を通じて街を支え、街と共に歩み成長していくこそ、私たちの使命であります。

霧島の地で誰もが自分らしく生きられる社会を支えるためにも、地域の皆さま行政、医師会、介護・福祉の関係者と手を携えながら、昨今の厳しい経済事情も踏まえ、今後も持続可能な医療とともに考える年になりそうです。

本年も職員一同力を合わせて皆さまに安心と信頼の医療を届け、地域の皆さまに必要とされる存在として共に歩んでまいります。

本年もよろしくお願ひいたします。

謹んで新年のお慶びを

申し上げます



日頃より地域住民の皆さま、地域の医療機関皆様におかれましては、霧島市立医師会医療センターへのご理解、ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

昨年二〇二五年は、二月に新病院が完成し、職員一丸となり地域の皆様のニーズに応えようと初心にかえり取り組みました。新病院の全室個室というメリットを活用し、面会ルールを守つていたが、だくことで面会制限緩和を実現することができます。患者・患者家族から良い評価を頂いております。

らゆる世代の人々の健康を支えていくことを求められています。地域の皆様の医療ニーズに応え命、暮らし、尊厳を守り支える看護を提供できます。今うにしてまいります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。

この新しい年が皆様にとりまして幸多き一年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

KIRISHIMA MEDICAL CENTER 「DAN」

HCU室長／救急科医長  
政所 祐太郎

## HCUの紹介



## 人間ドックの紹介



健診担当医  
徳留 美智子



新病院の六階に位置する人間ドックフロアは、隼人の街並みと桜島を眺められる、明るく開放的な眺望が魅力です。フロアは男女別に分けて、プライバシーに配慮しており落ち着いた空間になっています。

当院の人間ドック・健診事業では、健康の確認、異常の早期発見、病気の予防を主な目的とし、医師二名、保健師四名、看護師二名、事務職員四名のチーム体制で皆様の健康をサポートするべく努めています。

人間ドック・健診は受けて、結果を聞いて終わりではありません。健健康でいられるための始まりです。受診された方がその後の人生をより健康な身体で、生き生きと生活していくために、結果をお伝えするだけでなく、病気になりにくい身体でい



地域の皆様の生活がより良いものとなるよう、スタッフ一同心がけています。

られるような日常の生活改善などのアドバイスを行います。受診後には、勧められた精密検査や必要な治療を受けているかまでをサポートしています。受診された方の中には、受診時に心電図異常等がみつかり早期に診療、入院加療につながる方もいらっしゃいました。

さらに、二〇二五年六月からPET-CT検診を導入しており早期の悪性腫瘍の早期発見にも力を入れています。

これまで集中治療体制がないために鹿児島市内へ搬送せざるを得なかつた重症患者さんを、地域内で治

療できるようになることで、病気が不安定な場合や人工呼吸器での管理が必要な場合など、重症度が高いケースには集中治療医が加わる診療体制も整備しています。

かつては「重症患者はしっかりと眠らせ長期間安静にする」というのが主流でした。しかし現在では、過剰な安静、長期の集中治療室滞在、環境変化によるせん妄などを背景に、メンタルヘルス障害（不安・PTSD、うつ症状）、認知／身体機能障害が生じる影響を及ぼす「P-ICCS (Post Intensive Care Syndrome : 集中治療後症候群)」が懸念されています。救命はできても寝たきり生活を余儀なくされたり、社会復帰が困難になると、「元の生活に戻れない」ケースをできる限り減らすことが、近年の集中治療の大きな目標になっています。当院HCUにおいても、医師による全身管理に加え、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、心理士など各専門職が協力し、早期リハビリテーション、早期栄養療法、睡眠の質改善、せん妄予防、集中治療による合併症予防、患者さんや家族のメンタルケアなど、チームで包括的な全身管理をを目指しています。

療科の主治医が行いますが、血圧が

不安定な場合や人工呼吸器での管理

が必要な場合など、重症度が高いケー

スには集中治療医が加わる診療体制

も整備しています。

かつては「重症患者はしっかりと眠らせ長期間安静にする」というのが主流でした。しかし現在では、過剰な安静、長期の集中治療室滞在、環境変化によるせん妄などを背景に、メンタルヘルス障害（不安・PTSD、うつ症状）、認知／身体機能障害が生じる影響を及ぼす「P-ICCS (Post Intensive Care Syndrome : 集中治療後症候群)」が懸念されています。救命はできても寝たきり生活を余儀なくされたり、社会復帰が困難になると、「元の生活に戻れない」ケースをできる限り減らすことが、近年の集中治療の大きな目標になっています。当院HCUにおいても、医師による全身管理に加え、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士、心理士など各専門職が協力し、早期リハビリテーション、早期栄養療法、睡眠の質改善、せん妄予防、集中治療による合併症予防、患者さんや家族のメンタルケアなど、チームで包括的な全身管理をを目指しています。

これまで集中治療体制がないため

も安心できる生活基盤となると考えています。まだ立ち上げもなく不

十分なところもありますが、日々改

善しより良い医療提供に努めてまい

ります。



# 外来患者さん 満足度調査

の結果をお知らせします

【調査期間】2025年8月25日～8月29日

【調査対象】149名

【調査場所】1階外来フロア

【調査方法】無記名の投函によるアンケート調査

## 対象患者さん情報

### 年齢別



### 今回の受診は？



アンケート結果		非常に満足	満足	やや不満	不満	不明
施設面	通院のしやすさ	37	93	11	2	6
	駐車場の広さや入りやすさ	31	51	44	18	5
	建物の外観	67	74	4	2	2
	総合待合室の設備や雰囲気	64	80	4	0	1
	各科の待合室の設備や雰囲気	63	77	9	0	0
	トイレや洗面所の設備	74	60	4	1	10
	売店、食堂、自動販売機	38	72	11	0	28
	案内板や表示のわかりやすさ	49	82	14	2	2
	清潔感	75	70	2	0	2
	施設面全般について	56	79	9	1	4
接遇面	総合案内や会計窓口の応対	68	69	1	1	10
	各科診療窓口の応対	68	68	3	0	10
	看護師の言葉遣いや態度	78	60	1	0	10
	医師の言葉遣いや態度	85	50	0	1	13
	検査・放射線技師の言葉遣いや態度	55	39	0	0	55
	リハビリスタッフの言葉遣いや態度	39	28	0	0	82
	プライバシーへの配慮	62	54	4	0	29
	接遇面全般について	59	66	0	0	24
	採血の待ち時間	31	51	10	2	55
	検査の待ち時間	33	63	17	1	35
診療サービス面	診察の待ち時間	27	73	26	3	20
	診察後の支払いまでの待ち時間	29	78	15	3	24
	看護師の説明の解りやすさ	65	65	1	0	18
	医師の病状説明の解りやすさ	76	55	1	1	16
	医師への質問や相談のしやすさ	77	55	1	1	15
	診療科でのサービス全般について	58	70	3	1	17

## いただいたご意見

### 待ち時間について

- スムーズに流れた
- 待ち時間が少なく、とても良かった
- 待ち時間が少ないので満足
- 支払いまでが少し長い
- 受付の待ち時間、予約とずれる診察までの待ち時間、診察後の受付から申し送りを待つ時間（40分以上）、会計に出てからの支払いまでの待ち時間（30分以上）全て時間がかかり過ぎ、待つ間に疲労で体調に影響がある

### 施設・設備について

- 案内板をもう少しそうにわかりやすく
- エアコンで寒い場所があった
- 食堂等が欲しい
- 高齢者になると椅子に座る時は良いが立ち上がりが難しいので、数個高さのある椅子があれば立ち上がりがスムーズになる
- 待合室の冷房が寒かった（Aブロック）
- 場所がわかりづらい
- 駐車場がもっと広いと助かる
- 入り口がわかりにくい（特に初めての場合）
- 午前中はいつも駐車場探しが大変

アンケート調査のご協力、心より感謝いたします。

アンケートの結果やご意見を共有し、今後より一層、医療の質の改善活動に取り組んでまいります。

今後ともご理解とご協力の程、よろしくお願ひいたします。



〒899-5112 鹿児島県霧島市隼人町松永3320番地

**霧島医療センター**

TEL 0995-42-1171(代表) FAX 0995-42-2158

受付時間 8:30～11:00 診療時間 8:30～17:30 休診日 土・日・祝・年末年始

↓職員募集中↓

Instagram



@KIRISHIMA\_MEDICAL\_CENTER

看護部Instagram



@KIRISHIMAMC\_JOBOFFER

ホームページ

